

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2023年度 パフォーマンス向上会議情報(2023年12月28日(木)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2023年12月28日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	【12月23日の公表資料(護岸地下水観測孔分析結果)の記載誤りについて】 当社社員より、12月23日公表の「護岸地下水観測孔分析結果(全 β ・ γ ・塩素)」について、一部の採取地点の分析項目に誤りがあるのではないかと12月24日に問い合わせがあった。 調査の結果、当該の分析項目が、誤って、一列隣の分析項目に入力されていたことを確認。 正しい分析項目へ訂正入力したうえで、当社HPへ訂正版を12月24日掲載済。 今後、再発防止を検討。	GⅢ	12月24日
2	【12月16日の公表資料(海水トリチウム分析結果)の不等合不記載について】 原子力規制庁より、12月16日公表の「海水分析結果<発電所から3km以内>(全 β ・H-3・ γ)」について、一部の分析値に誤りがあるのではないかと12月25日に問い合わせがあった。 調査の結果、H-3の分析値において、「検出限界値未満」を示す記号「<」の記載が漏れていたことを確認。 漏れていた検出限界値未満を示す記号「<」を入力したうえで、当社HP等へ訂正版を12月25日掲載済。 今後、再発防止を検討。	GⅢ	12月25日
3	【東日本大震災以降使用していない機器からの冷媒漏えいについて】 協力企業作業員が、5号機原子炉建屋活性炭ホールドアップ塔室、6号機原子炉付属棟に設置されている、東日本大震災以降使用していない機器から冷媒の抜き取りを実施したところ、8台の機器で冷媒の漏えいを確認。 機器に目立った損傷は無いため、原因は経年劣化によるものと推定。 冷媒の漏えいについては、福島県相双地方振興局へ報告済み。	GⅢ	12月26日